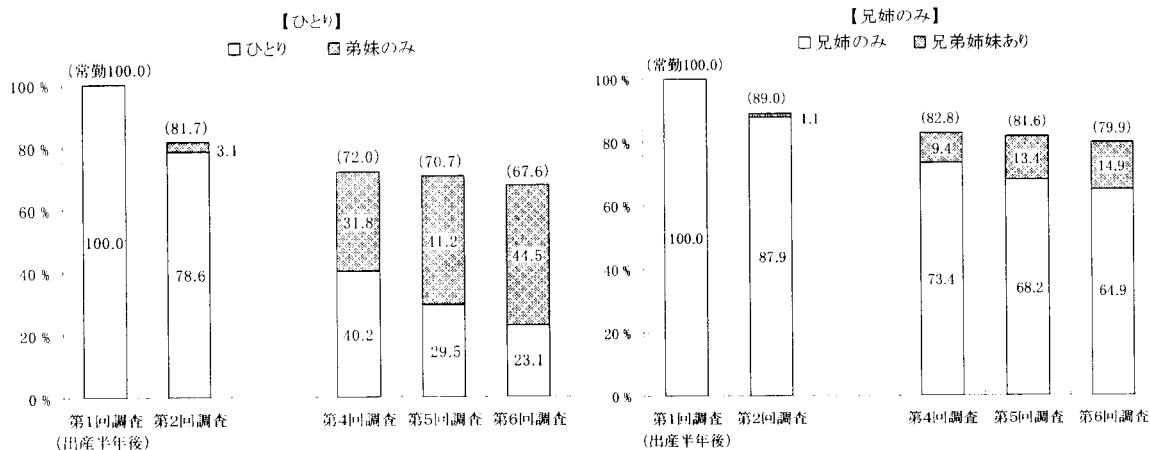


育児休業を取得した母の就業状況「常勤」の変化を、第1回調査時のきょうだい構成別にみると、「ひとり」では第2回調査で約2割減少して81.7%となり、弟妹の割合が増えるが第6回調査では常勤が67.6%となっている。一方「兄姉のみ」でも常勤の割合は減少しているが第6回調査で79.9%と、「ひとり」に比べ「常勤」として継続している割合が高い。(図12)

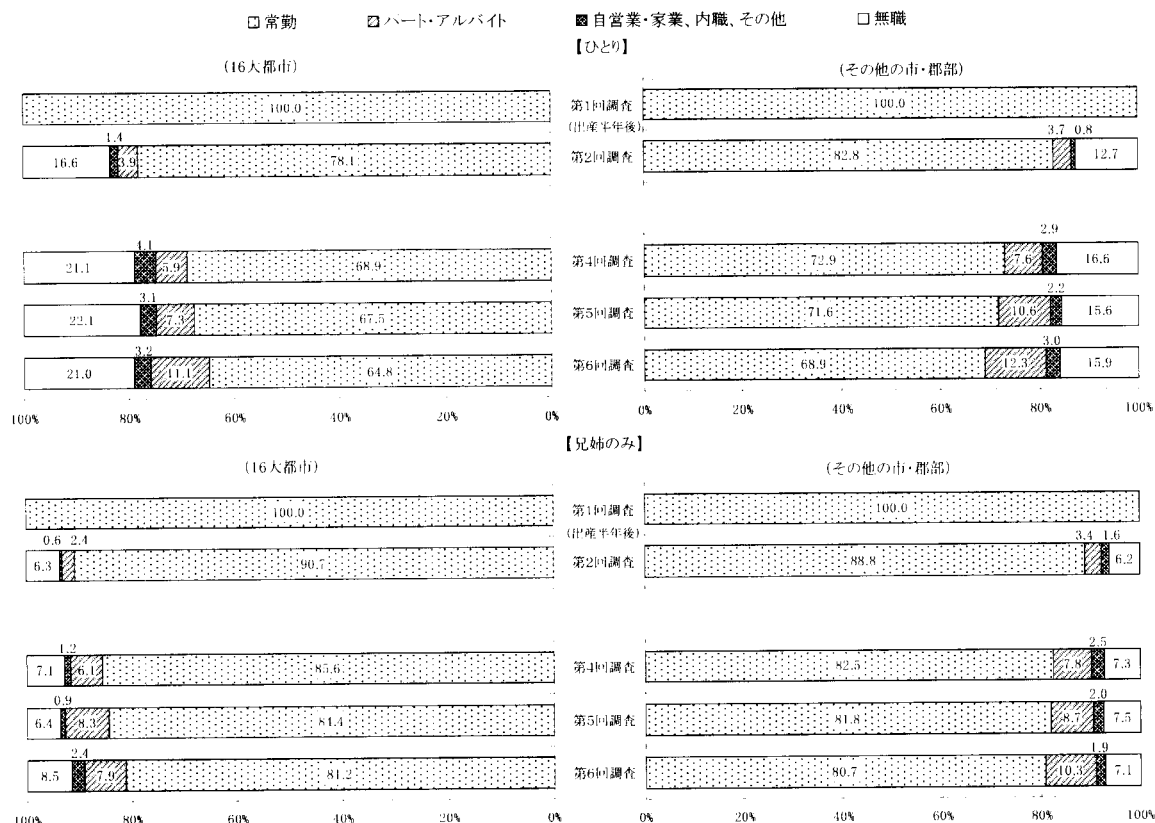
就業状況の変化を第1回調査時のきょうだい構成別にみると、「ひとり」が「兄姉のみ」に比べ「常勤」から移動する者が多くなっている。特に「16大都市」で移動が多く、「無職」が第2回調査で16.6%、第6回調査で21.0%となり、「常勤」の割合は64.8%と少なくなっている。(図13)

図12 出産半年後に育児休業を取得した母の就業状況「常勤」及びきょうだい構成の変化



注：1) 母と同居している、第1回調査から第6回調査まで回答を得た、母の就業状況「不詳」を除く者(総数 33,395)を集計。
 2) 「育児休業取得あり」とは、第1回調査(出産半年後)に育児休業を「すでに取得した」、「現在、育児休業中である」、「これから取得する予定である」者をいう。
 3) 第3回調査は母の就業状況を調査していない。

図13 出産半年後に育児休業を取得した母の就業状況の変化

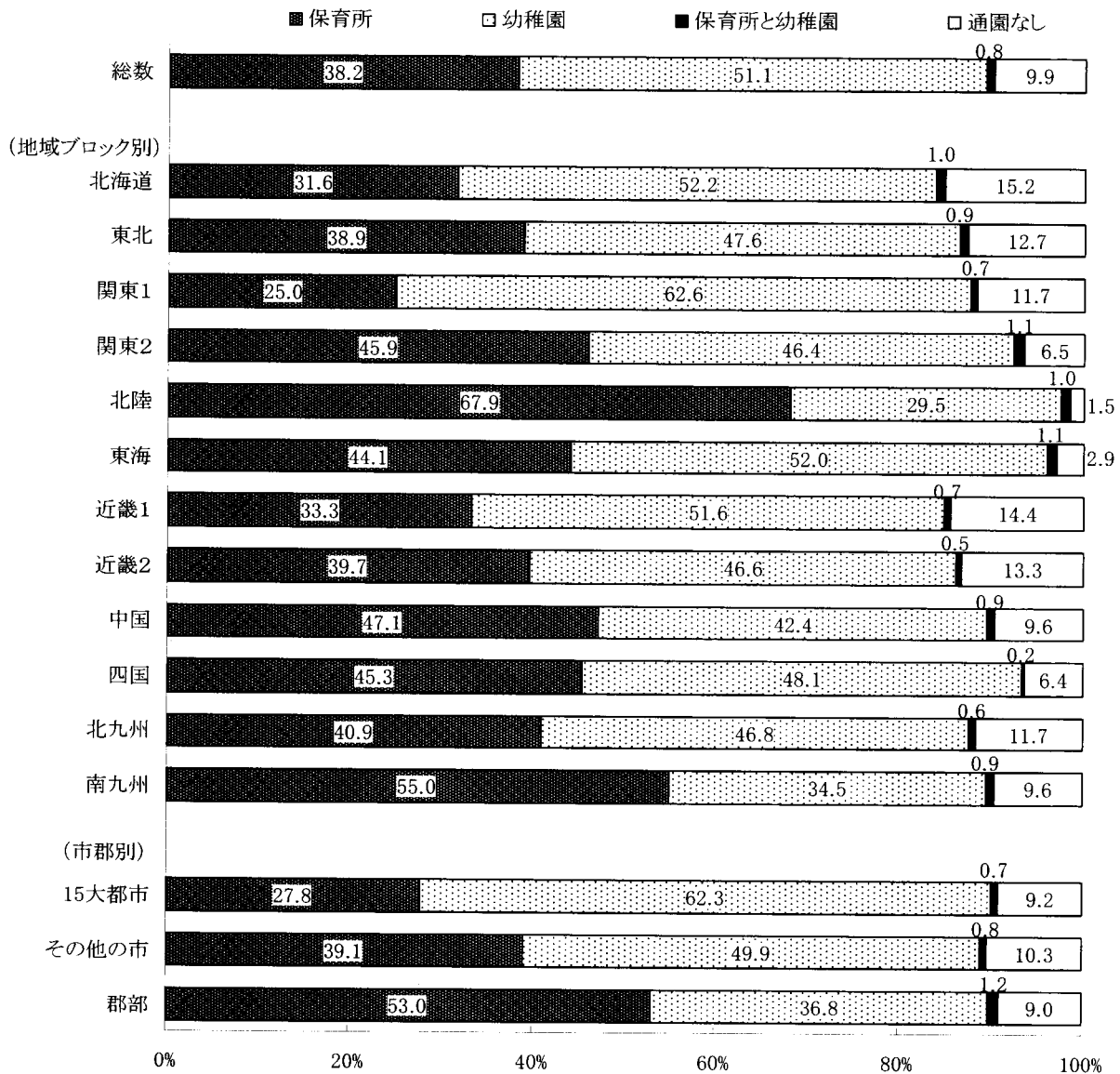


注：1) 母と同居している、第1回調査から第6回調査まで回答を得た、母の就業状況「不詳」を除く者(総数 33,395)を集計。
 2) 「育児休業取得あり」とは、第1回調査(出産半年後)に育児休業を「すでに取得した」、「現在、育児休業中である」、「これから取得する予定である」者をいう。
 3) 第3回調査は母の就業状況を調査していない。
 4) 「16大都市」は、第1回調査から第5回調査までの住所地在、第6回調査時の「16大都市」の地域に区分した。

カ 地域別にみた通園の状況

第5回調査時（4歳6か月）の通園の状況をみると、総数では「保育所」が38.2%、「幼稚園」が51.1%と「幼稚園」に通園の割合が多いが、地域ブロック別でみると、「保育所」は「北陸」（67.9%）と「南九州」（55.0%）が高く、幼稚園では「関東1」（62.6%）と「北海道」（52.2%）が高い。また市郡別にみると、「15大都市」では「幼稚園」（62.3%）の割合が高く、「郡部」では逆に「保育所」（53.0%）が高くなっている。（図14）

図14 地域ブロック・市郡別にみた第5回調査時（4歳6か月）の通園の状況



注：1）母と同居している、第1回調査から6回調査まで回答を得た、母の就業状況「不詳」、通園状況「不詳」を除く（総数33,371）を集計。

2）総数には外国在住分を含む。

3）「地域ブロック」「市郡」は第5回調査の状況である。

「地域ブロック」の区分は以下のとおりである。

「北海道」 北海道

「関東1」 埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

「北陸」 新潟県、富山県、石川県、福井県

「近畿1」 京都府、大阪府、兵庫県

「中国」 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

「北九州」 福岡県、佐賀県、長崎県、大分県

「東北」 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

「関東2」 茨城県、栃木県、群馬県、山梨県、長野県

「東海」 岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

「近畿2」 滋賀県、奈良県、和歌山県

「四国」 徳島県、香川県、愛媛県、高知県

「南九州」 熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

「15大都市」の区分は以下のとおりである。

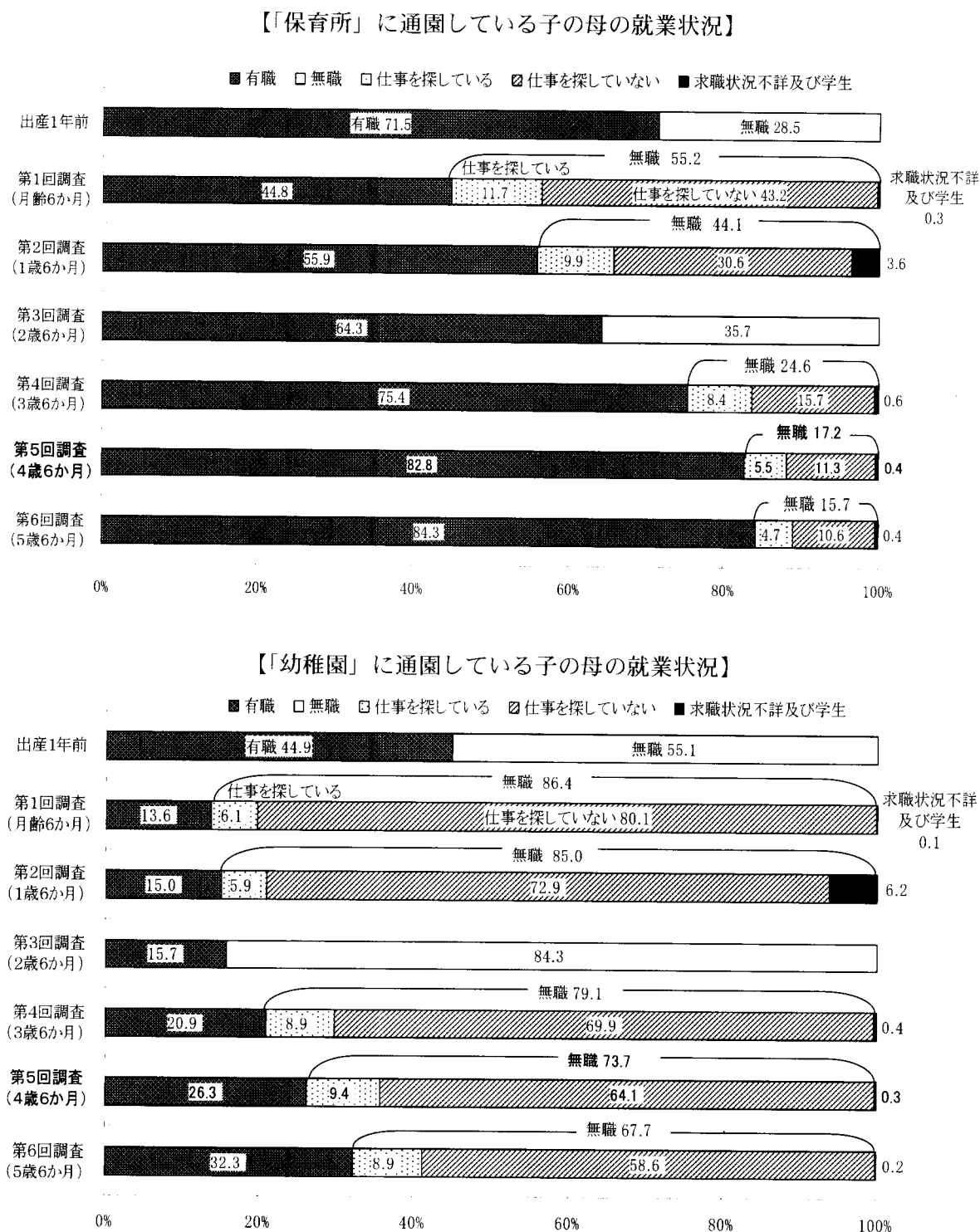
東京都港区、札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、静岡市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市、

広島市、北九州市、福岡市

キ 通園の状況別にみた母の就業状況の変化

第5回調査時（4歳6か月）の通園状況別に母の就業状況の変化をみると、保育所に通園している子の母は、出産1年前では「有職」71.5%、「無職」28.5%で、第1回調査（月齢6か月）では「有職」が44.8%と減少したが、年々増加して、第6回調査（5歳6か月）では、「有職」84.3%、「無職」15.7%となっている（図15）。

図15 第5回調査時（4歳6か月）の通園状況別にみた母の就業状況の変化



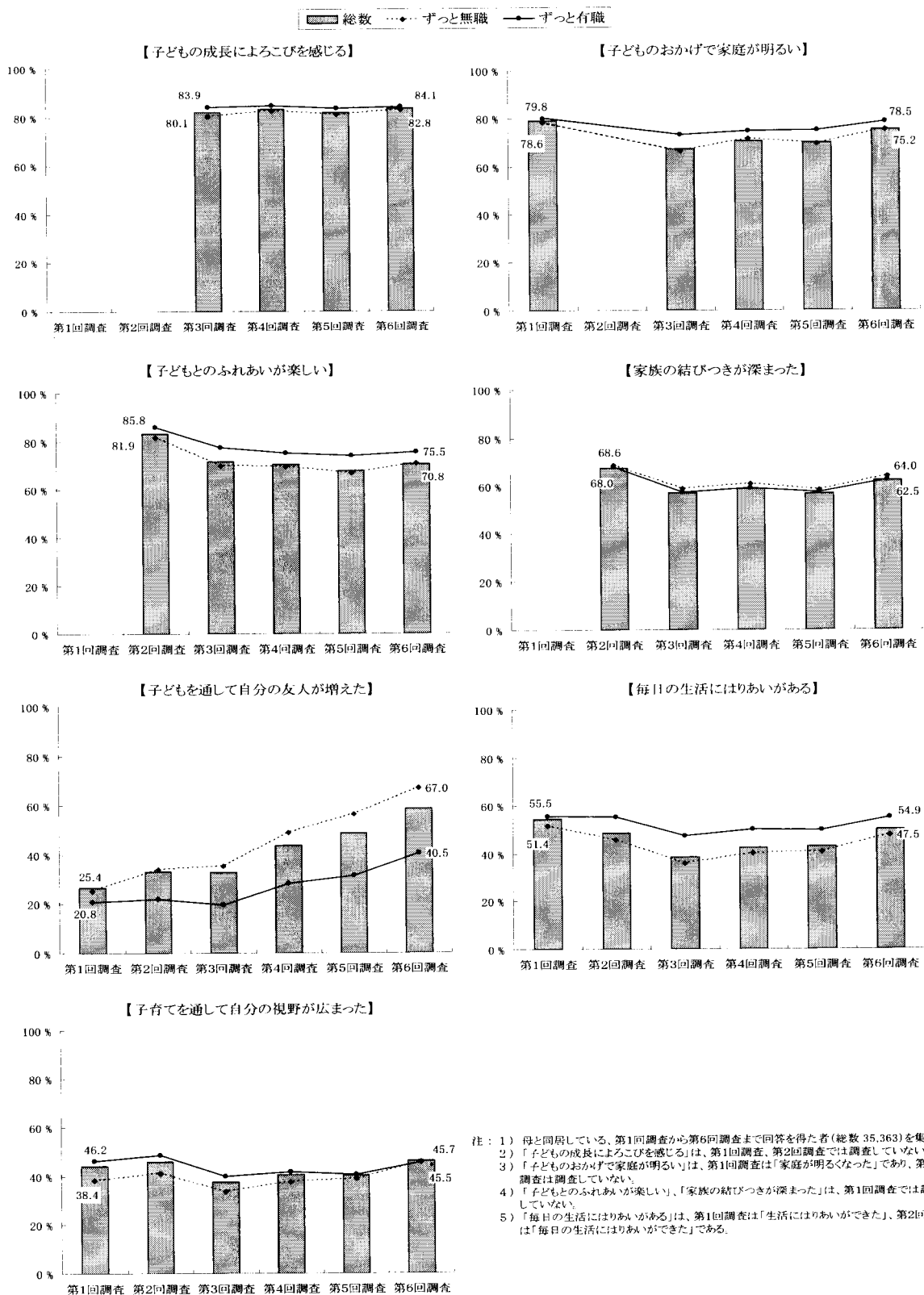
注：1）母と同居している、第1回調査から6回調査まで回答を得た、母の就業状況「不詳」、通園状況「不詳」を除く者（総数33,371）を集計。
2）出産1年前、第3回調査は求職状況を調査していない。

2 子育ての意識

(1) 子どもを育ててよかったと思うこと

子どもを育ててよかったと思うこと（複数回答）の変化を、母の就業の有無別に比較すると、「子どもを通して自分の友人が増えた」では「ずっと無職」の割合が高く、「毎日の生活にはりあいがある」では「ずっと有職」の割合が高くなっている（図16）。

図16 母の就業の有無別にみた主な子どもを育ててよかったと思うこと（複数回答）

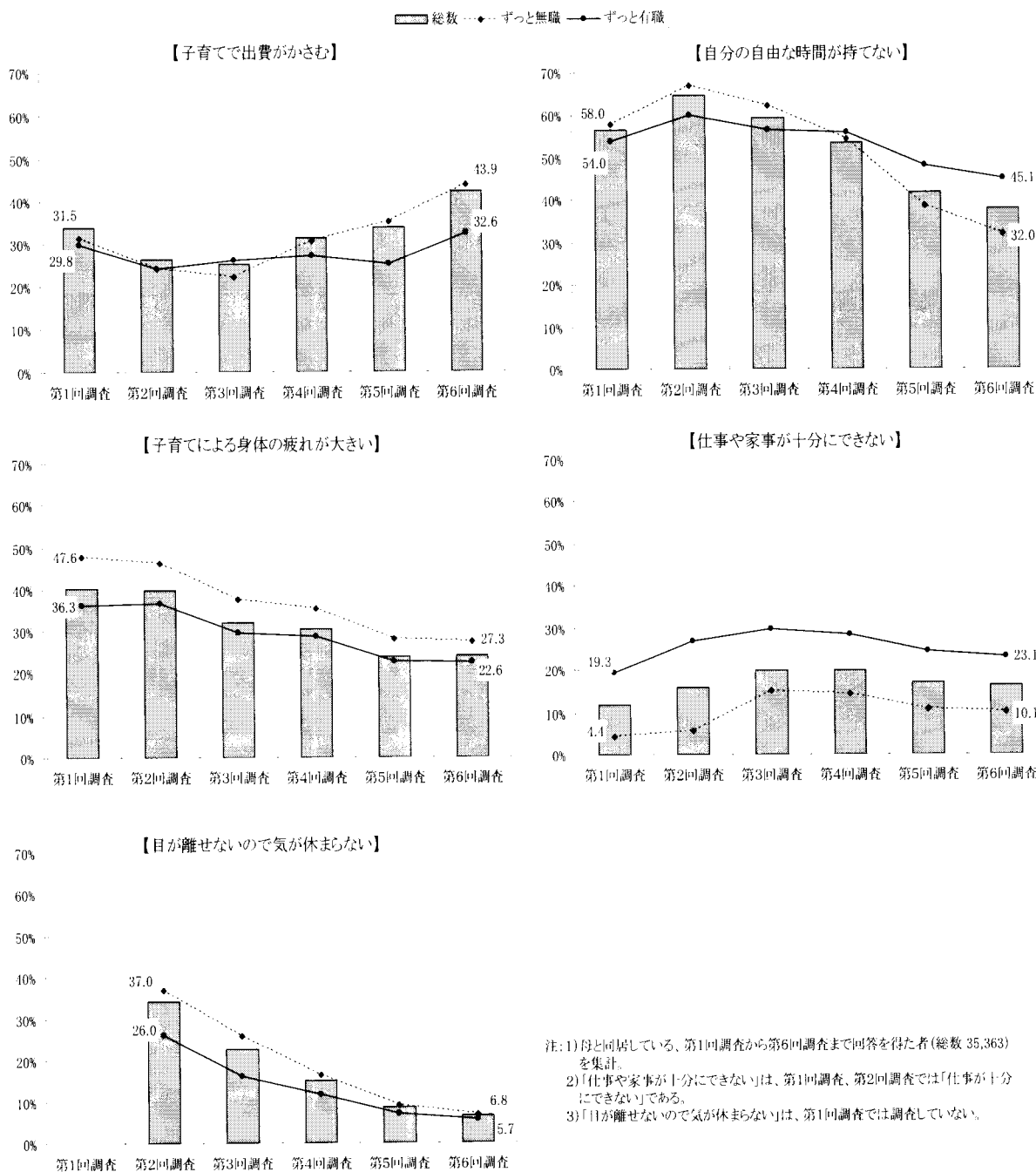


注：1) 母と同居している、第1回調査から第6回調査まで回答を得た者(総数 35,363)を集計。
 2) 「子どもの成長による喜びを感じる」は、第1回調査、第2回調査では調査していない。
 3) 「子どものおかげで家庭が明るい」は、第1回調査は「家庭が明るくなった」であり、第2回調査は調査していない。
 4) 「子どもとのふれあいが楽しい」、「家族の結びつきが深まった」は、第1回調査では調査していない。
 5) 「毎日の生活にはりあいがある」は、第1回調査は「生活にはりあいがあった」、第2回調査は「毎日の生活にはりあいがあった」である。

(2) 子どもを育てていて負担に思うことや悩み

子どもを育てていて負担に思うことや悩み（複数回答）の変化を、母の就業の有無別に比較すると、「子育てによる身体の疲れが大きい」、「目が離せないので気が休まらない」は「ずっと無職」の割合が高く、「仕事や家事が十分にできない」は、「ずっと有職」の割合が高くなっている。また、第4回調査以降「子育てで出費がかさむ」は「ずっと無職」の割合が高くなり、「自分の自由な時間が持てない」は「ずっと有職」の割合が高くなっている。母の就業の有無により、負担に思うことや悩みに差が出ている。（図17）

図17 母の就業の有無別にみた主な子どもを育てていて負担に思うことや悩み（複数回答）



3 子どもの生活の状況

(1) 子どもの成長(身長と体重)

出生時(平成13年)から5歳6か月(第6回調査)までの体重と身長推移を性別にみると、男児は出生時の平均体重と平均身長は3,076g、49.2cmとなっており、1歳6か月(第2回調査)では身長が出生時から約32cm伸びて81.1cmとなり、体重も約7.8kg増え10.9kgとなっている。5歳6か月においては、平均体重が18.9kg、平均身長が110.5cmとなっている。また女児は男児との差はあるものの、同様の傾向で成長している。(表3)

出生時の体重別に、平均体重と平均身長の5歳6か月までの推移をみると、2,500g未満と2,500g以上の子どもでは、調査回毎に差はあるものの同様の傾向で成長している(表4、図18、図19、図20)。

表3 平均体重・平均身長の推移

	男児			女児		
	体重(kg)	身長(cm)	身長差(cm)	体重(kg)	身長(cm)	身長差(cm)
出生時	3.076	49.2	-	2.990	48.7	-
1歳6か月	10.9	81.1	31.9	10.3	79.7	31.0
2歳6か月	13.1	90.0	8.9	12.6	88.8	9.1
3歳6か月	15.0	97.2	7.2	14.5	96.2	7.4
4歳6か月	16.8	104.0	6.8	16.5	103.2	7.0
5歳6か月	18.9	110.5	6.5	18.5	109.8	6.6

注：第1回調査から第6回調査まで回答を得た、出生体重・身長、各回の体重・身長の「不詳」を除く者(男児 9,177、女児 8,505)を集計。

表4 平均体重・平均身長の推移(出生時体重2,500g以上と2,500g未満)

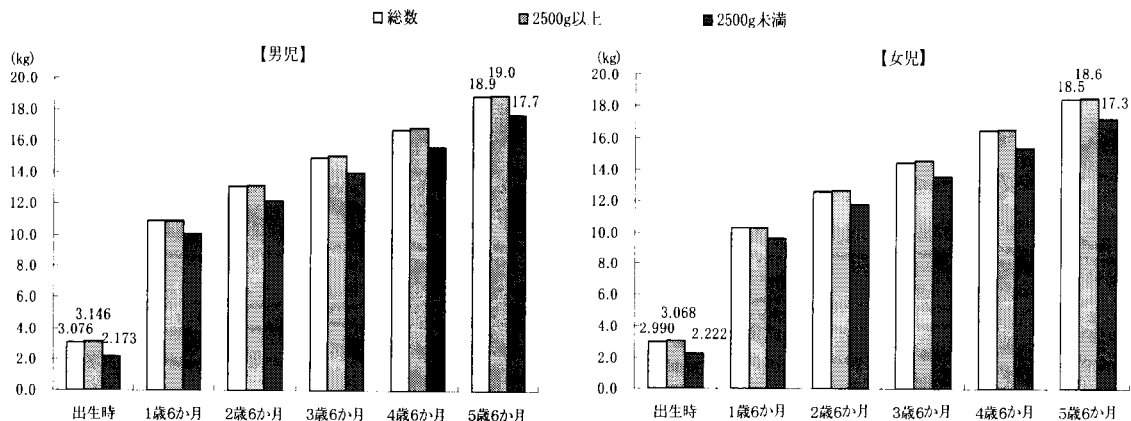
		男児			女児		
		総数	出生時 2,500g以上	出生時 2,500g未満	総数	出生時 2,500g以上	出生時 2,500g未満
平均 体重 (kg)	出生時	3.076	3.146	2.173	2.990	3.068	2.222
	1歳6か月	10.9	10.9	10.1	10.3	10.3	9.6
	2歳6か月	13.1	13.2	12.2	12.6	12.7	11.8
	3歳6か月	15.0	15.1	14.0	14.5	14.6	13.6
	4歳6か月	16.8	16.9	15.7	16.5	16.6	15.4
	5歳6か月	18.9	19.0	17.7	18.5	18.6	17.3
平均 身長 (cm)	出生時	49.2	49.6	45.0	48.7	49.1	45.2
	1歳6か月	81.1	81.2	79.1	79.7	79.9	78.0
	2歳6か月	90.0	90.1	88.1	88.8	89.0	87.1
	3歳6か月	97.2	97.4	95.2	96.2	96.4	94.5
	4歳6か月	104.0	104.2	102.0	103.2	103.4	101.4
	5歳6か月	110.5	110.7	108.3	109.8	110.0	107.6

注：1) 第1回調査から第6回調査まで回答を得た、出生体重・身長、各回の体重・身長の「不詳」を除く者(男児 9,177、女児 8,505)を集計。

2) 出生時体重「2,500g以上」、「2,500g未満」の総数に対する割合は以下のとおりである。

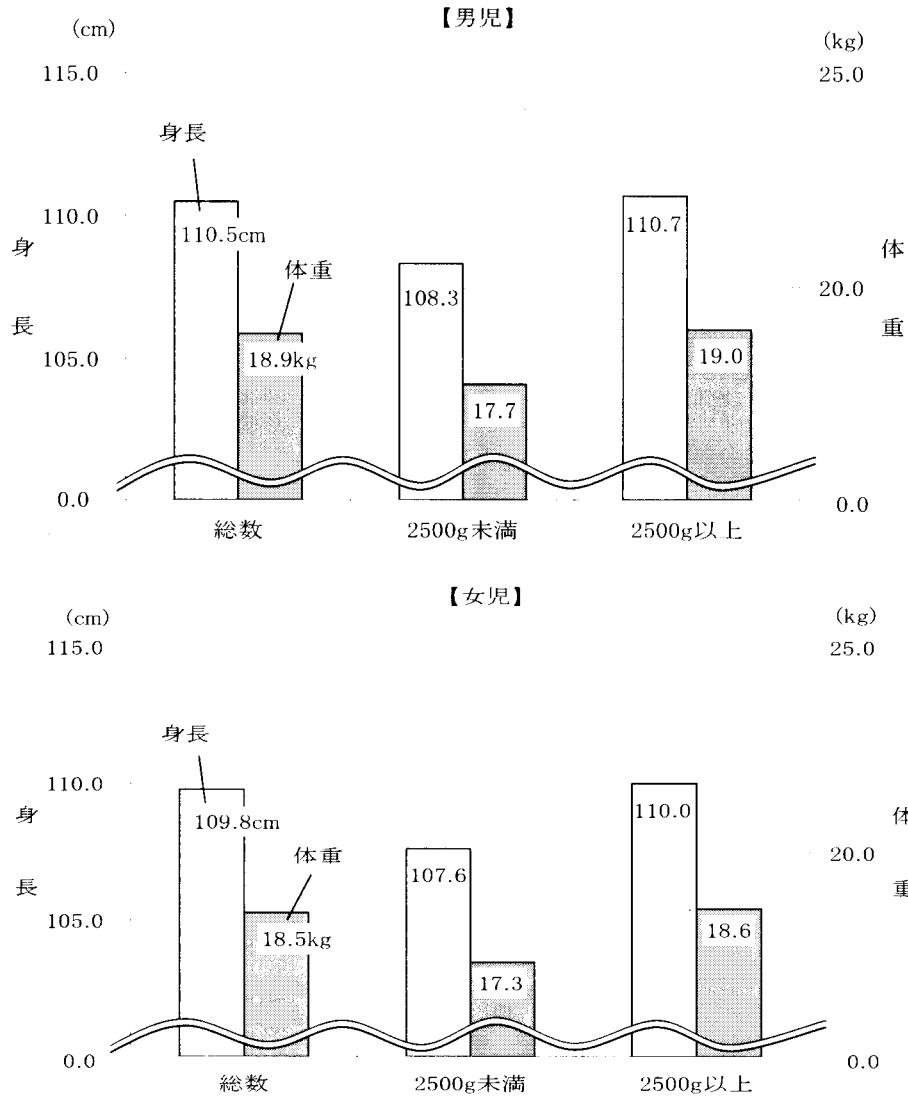
男児 「2,500g以上」92.7%、「2,500g未満」7.3%
女児 「2,500g以上」90.8%、「2,500g未満」9.2%

図18 平均体重の推移(出生時体重2,500g以上と2,500g未満)



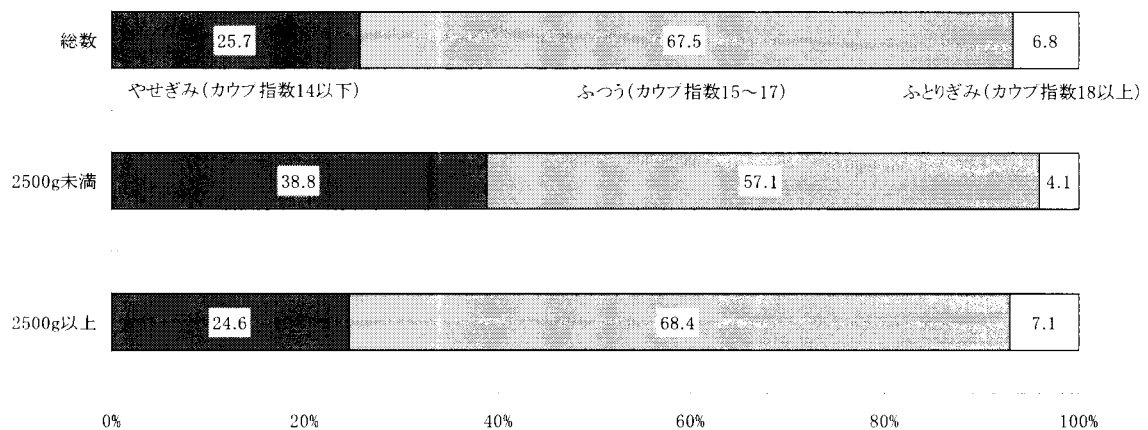
注：第1回調査から第6回調査まで回答を得た、出生体重・身長、各回の体重・身長の「不詳」を除く者(男児 9,177、女児 8,505)を集計。

図19 出生時の体重別に見た5歳6か月の身長と体重



注：第1回調査から第6回調査まで回答を得た、出生体重・身長、各回の体重・身長の「不詳」を除く者（男児 9,177、女児 8,505）を集計。

図20 出生時の体重別に見た子どもの体型（5歳6か月）



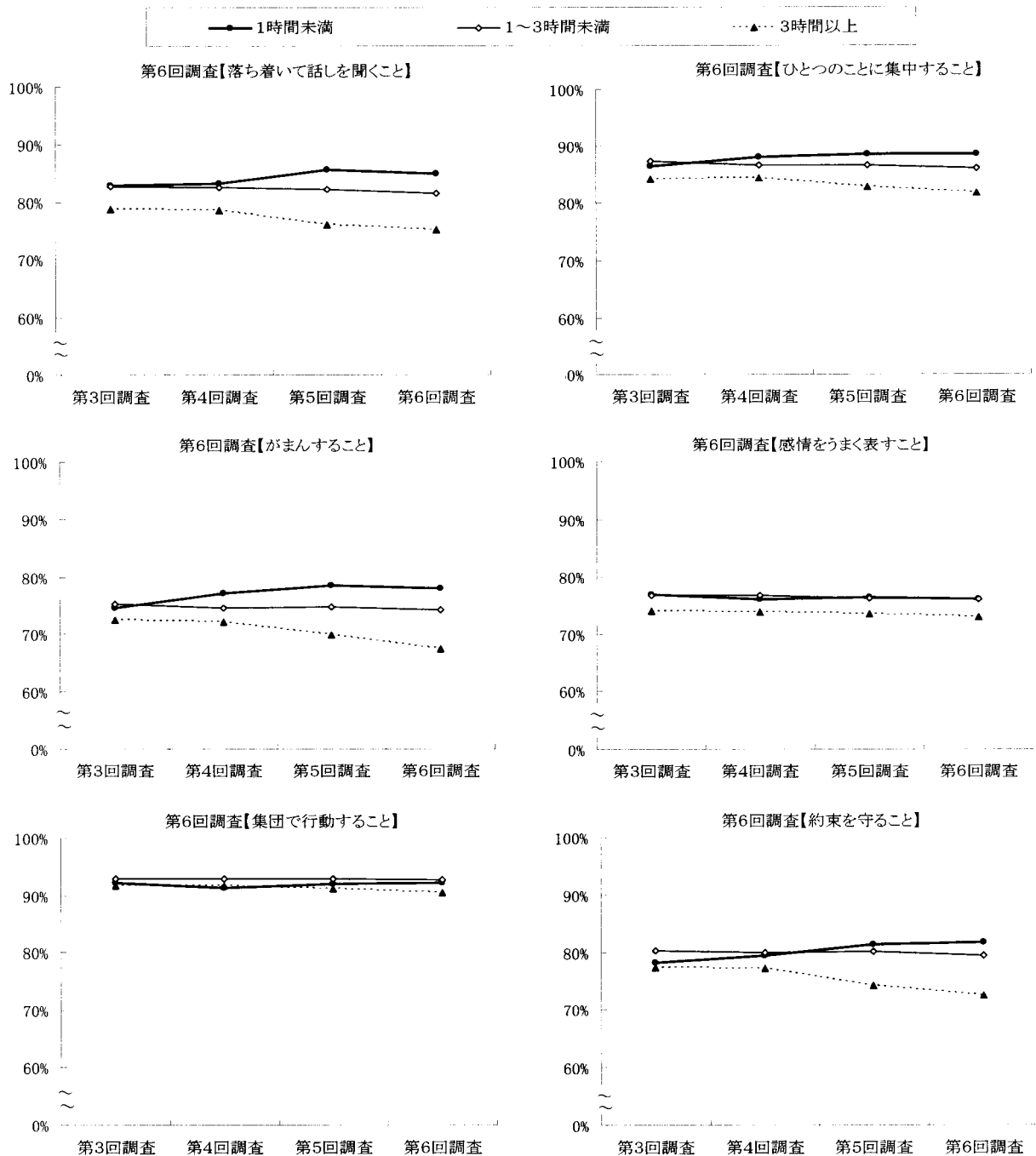
注：第1回調査から第6回調査まで回答を得た、出生体重・身長、各回の体重・身長、第6回調査カウプ指数の「不詳」を除く者（総数17,682）を集計。

(2) テレビ・コンピュータゲーム

ア 「ふだんの日にテレビを見る時間」別にみた「子どもの行動」

第3回調査から第6回調査までの、ふだんの日にテレビ（ビデオ、DVDを含む）を見る時間別に、第6回調査の「子どもの行動」で「できる」と回答のあった割合をみると、「1時間未満」は、「落ち着いて話を聞くこと」、「ひとつのことに集中すること」、「がまんすること」、「約束を守ること」の割合が高くなっている（図21）。

図21 ふだんの日にテレビを見る時間別にみた
第6回調査「子どもの行動」で「できる」と回答のあった割合



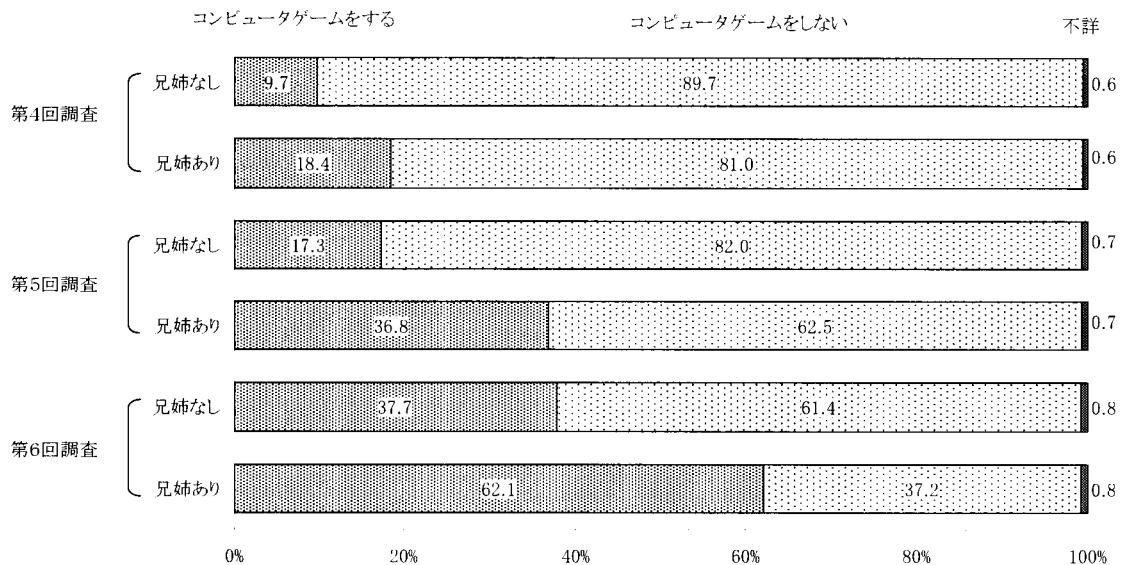
注：1) 第1回調査から第6回調査まで回答を得た者(総数 35,785)を集計。
2) 第3回調査から第5回調査までは「ふだん1日にテレビをどのくらいみえていますか」として調査した。
3) 第6回調査は「テレビを1日に見ている時間」を「ふだんの日」と「日曜日」に分けて調査した。

イ コンピュータゲーム

きょうだい構成別に、コンピュータゲームをする子の割合の変化をみると、「兄弟あり」は「兄弟なし」に比べ、「コンピュータゲームをする」割合が高くなっている（図22）。

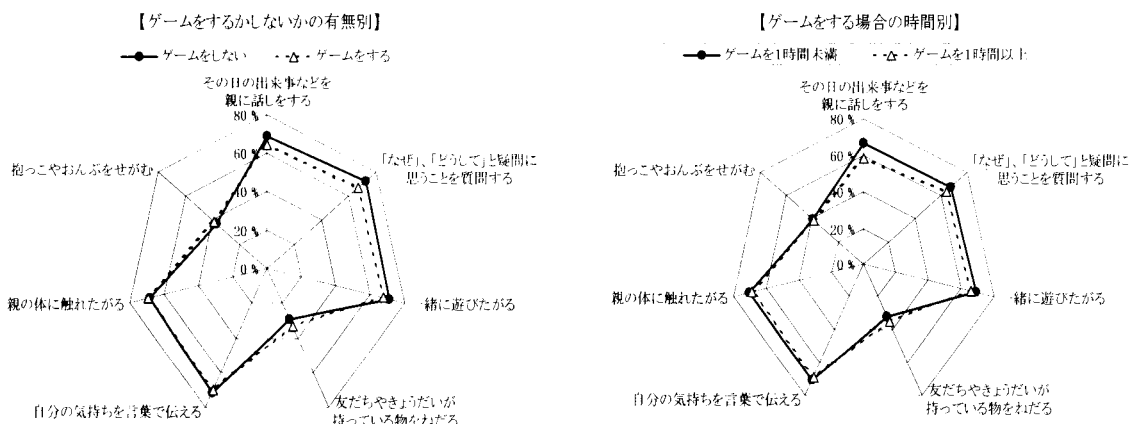
第6回調査「ふだんの日にコンピュータゲームをする状況」別に、「子どもの父母との接し方」で「よくする」と回答のあった割合をみると、「ゲームをしない」及びゲームをする場合「ゲームを1時間未満」するでは、「その日の出来事などを親に話しをする」、「「なぜ」、「どうして」と疑問に思うことを質問する」の割合が高くなっている（図23）。

図22 きょうだい構成別にみたコンピュータゲームをする子の割合の変化



- 注：1）第1回調査から第6回調査まで回答を得た者（総数 35,785）を集計。
 2）第4回調査、第5回調査は「ふだん1日にコンピュータゲームでどれくらい遊んでいますか」として調査した。第6回調査は「コンピュータゲームを1日にする時間」を「ふだんの日」と「日曜日」に分けて調査した。
 3）第6回調査の「コンピュータゲームをする」は、「ふだんの日」、「日曜日」のいずれか又は両方する者である。「コンピュータゲームをしない」は、「ふだんの日」、「日曜日」の両方しない者である。
 4）「コンピュータゲーム」とは、テレビゲーム、パソコンゲーム、携帯型ゲームなどである。

図23 第6回調査「ふだんの日にコンピュータゲームをする状況」別にみた第6回調査「子どもの父母との接し方」で「よくする」と回答のあった割合



- 注：1）第1回調査から第6回調査まで回答を得た者（総数 35,785）を集計。
 2）「コンピュータゲーム」とは、テレビゲーム、パソコンゲーム、携帯型ゲームなどである。

(3) 父と子ども

ア 父の就業状況

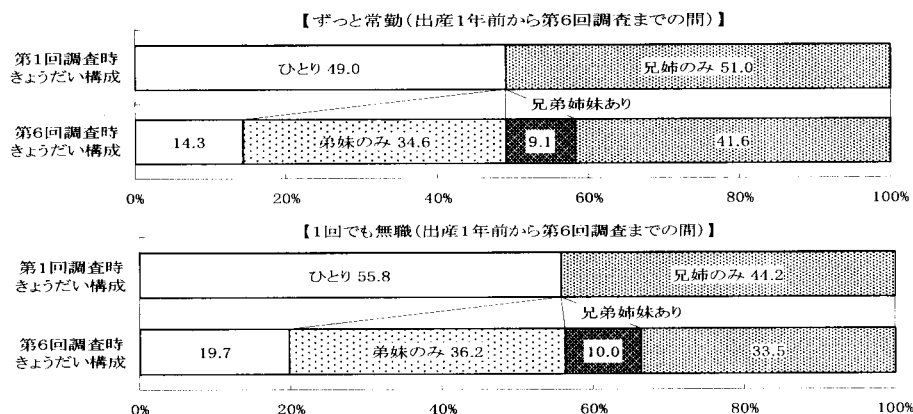
父の就業状況を見ると、出産1年前から第6回調査までの間で「ずっと有職」の割合が95.0%で、そのうち「ずっと常勤」が75.6%となっており、第6回調査までの間で「1回でも無職」を経験した父親は5.0%となっている（表5）。

父の就業状況別にきょうだい構成の変化を見ると、第1回調査では、「ずっと常勤」は「ひとり」49.0%、「兄弟のみ」51.0%、「1回でも無職」は「ひとり」55.8%、「兄弟のみ」44.2%となっている。第6回調査では「ずっと常勤」、「1回でも無職」のいずれも弟妹が増えているが、「ひとり」の割合は、「1回でも無職」で19.7%と高くなっている。（図24）

表5 父の就業状況

(単位:%)	
	総数
総数	100.0
ずっと有職	95.0
(再掲) ずっと常勤	75.6
(再掲) ずっと自営業・家業、 内職、その他	7.9
1回でも無職	5.0

図24 父の就業状況別にみたきょうだい構成の変化

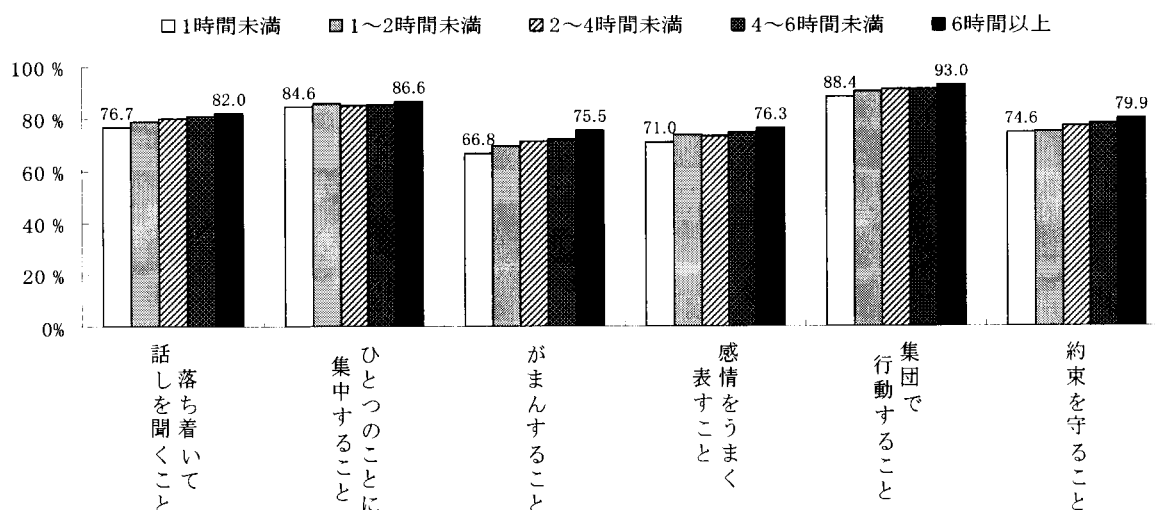


注：1) 父母と同居している、第1回調査から第6回調査まで回答を得た、父の就業状況「不詳」を除く者(総数 30,654)を集計。
2) 「ずっとパート・アルバイト」、「ずっと無職」は極小のため表章していない。
3) 第3回調査は父の就業状況を調査していない。

イ 「休日に父と過ごす時間」別にみた「子どもの行動」

第2回調査（1歳6か月）の「休日に父と過ごす時間」別に、第6回調査（5歳6か月）の「子どもの行動」で「できる」と回答のあった割合をみると、父と過ごす時間が長いほど割合が高くなっている（図25）。

図25 第2回調査（1歳6か月）の「休日に父と過ごす時間」別にみた
第6回調査（5歳6か月）の「子どもの行動」で「できる」と回答のあった割合

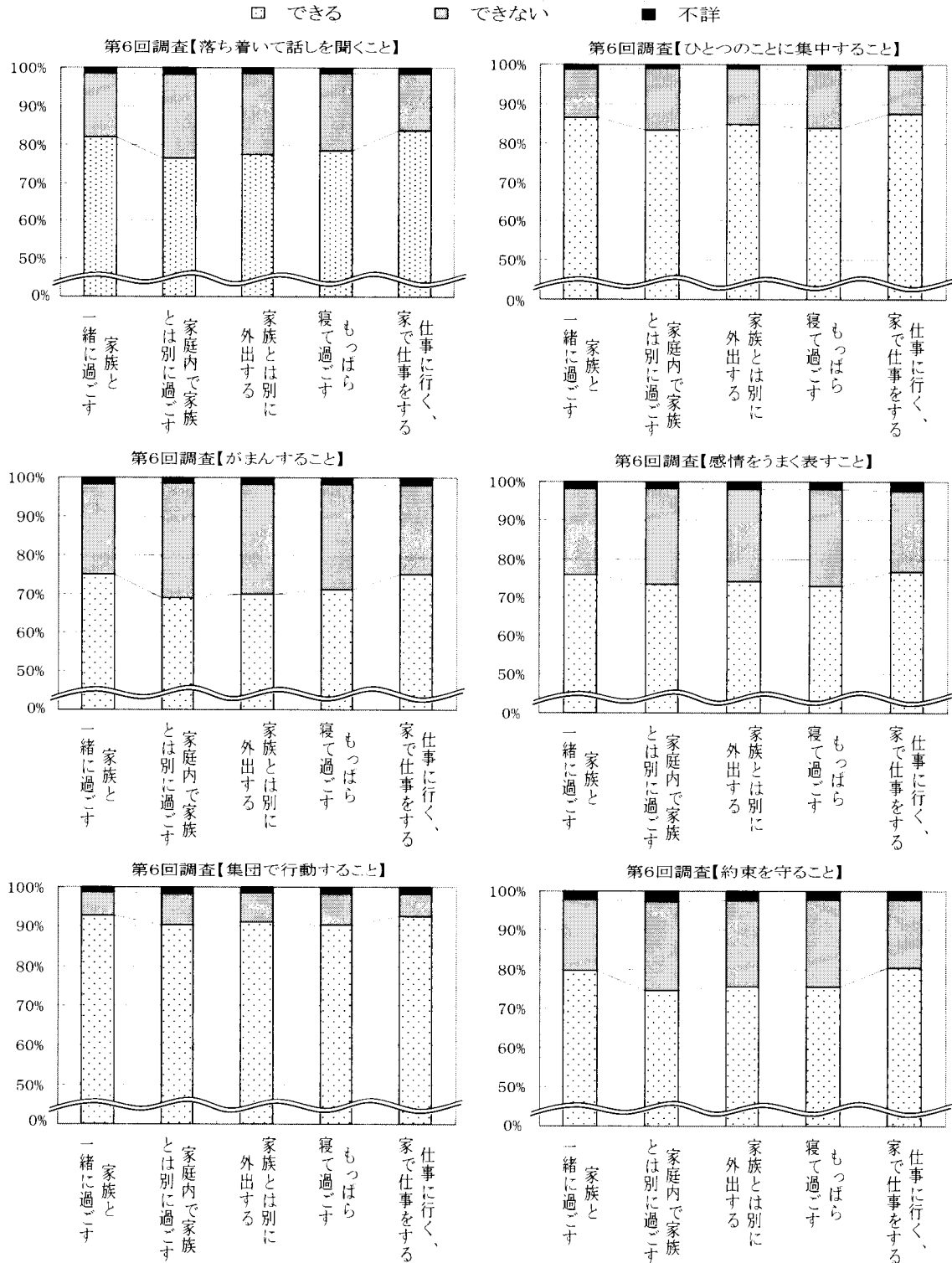


注：第1回調査から第6回調査まで回答を得た、第2回調査時に父と同居している者(総数34,892)を集計。

ウ 「父の休日の過ごし方」別にみた「子どもの行動」

第3回調査（2歳6か月）の「父の休日の過ごし方」別に、第6回調査（5歳6か月）の「子どもの行動」をみると、父が「家族と一緒に過ごす」、「仕事に行く、家で仕事をする」場合、「がまんすること」、「落ち着いて話を聞くこと」等で、他の過ごし方に比べて「できる」割合の差が大きくなっている（図26）。

図26 第3回調査（2歳6か月）の「父の休日の過ごし方」別にみた
第6回調査（5歳6か月）の「子どもの行動」



注：第1回調査から第6回調査まで回答を得た、第3回調査時に父と同居している者(総数34,577)を集計。